

わっ（和）三味線，響友 響学 響習 響働

～活動的で協働的で表現的な学習～

本単元で育成する資質・能力

発見力・表現力

- 1 日 時 令和元年11月13日（水） 6時間目
- 2 学年・学級 1年B組（男子15人 女子10人 計25人）
- 3 題 材 名 【勘所】を押さえ、和の響きを体感しよう（中学生の器楽 教育芸術社）
- 4 本題材を指導するにあたって

本題材は、中学校学習指導要領解説音楽編（平成29年）の第1学年 「B 鑑賞」ア鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながらアの（ウ）「音楽表現の共通性や固有性」 イの（ウ）「音楽表現の共通性、固有性を理解するとともに、我が国の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴を自分なりに考え音楽のよさや美しさを味わって聴くこと」を受けて設定した。楽器の音色や響きが生み出す特質、雰囲気を感じ、奏法との関わりを捉え、説明することや範奏（実技、体感）させることのできる題材である。技能の習得に関する学習を、創意工夫の過程に位置付けることにより、生徒が必要を感じながら、奏法、身体の使い方（所作）の技能を身に付けられるようにするとともに、音楽を聴いて我が国の伝統音楽の「よさ」を味わい、伝えていくことをねらいとしている。

和楽器について事前調査をしたところ、落ち着きがある、優しい、シンプルなどのイメージを持つ楽器であり、2割の生徒が地域活動などで【和太鼓】を体験していることがわかった。茶色のイメージ、震えを音にしているなど、感性を揺さぶるイメージを、言葉で表現している生徒もいた。また、【箏】に関しては、ほぼ全ての小学校で実践、体験していた。

夏休みには、三味線の調べ学習を課題にし、知識面では多くのことを共有できた。三味線は、同じ和楽器の絃楽器である「箏」に比べ、実体験した生徒はほとんどいなかった。持ち方などギター感覚で要領もよく見えるところが魅力であり、事前調査によると、体験してみたい和楽器に挙げた生徒が8割いた。さらに調べた結果「撥」を持ち演奏することから、奏法技術にも魅力を感じ、関心が膨らんだようである。

指導にあたっては、楽器の特徴（構造、奏法、音色響き、よさ）に関心をもち、基本的な奏法、姿勢、身体の遣い方を、主体的に取り組ませたい。所作は、和楽器を学ぶ上で重要な要素である。生徒の感性のアンテナの感度を上げるためには、より身近なところで演奏を体験、体感させることであり、ゲストティーチャーの生演奏から、どのような動き（詳細な面）、持ち方、姿勢であるとよい音色に繋がるのかをじっくり観察させたり、調べたりした事を交流し、感じた感性を価値ある感性に置き換え考えさせたい。伝統芸能の「技」習得は、師からの教えを何度も見て盗めと言われる。音楽的な見方、考え方を働かせた音楽科の学習を深め広めることが、生きて働くことに繋がること、また、知識だけでなく、実際に取り組みその習得への道のりの厳しさも味あわせたい。

【生徒の主体的な学びを促すポイント】

- 個人的に知覚、感受したものを、グループごとに交流し、深めることができるようにする。（主体的→対話的→深い学び）
- 音楽的な見方・考え方を働かせ、ゲストティーチャーの演奏を鑑賞する。
- 体験、体感した知識を、個のものだけにしないで、他者に文章表現で発信し、共有する。その際、可能な限り音楽用語が使用できるようアドバイスをする。

【基礎・基本の定着】

（１）習得すべき基礎・基本について

- 三味線の特徴（楽器の構造，奏法，音色や響き，よさ）に関心をもつ。
- 基本的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組む。

（２）定着への手立て

- 楽器に対して関心をもたせる。

５ 単元の目標

- 楽器の特徴を捉え，基礎的な奏法，所作を身に付け演奏することができる。

６ 単元の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①三味線の音色や奏法に関心を持ち，基礎的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②三味線の構造や奏法，楽器固有の音色や響き，良さに関心を持ち，基礎的な奏法，楽器の初歩的な演奏方法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。	①三味線の音色，旋律，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。 ②知覚・感受しながら，三味線の音色や奏法，良さに関心を持ち，基礎的な奏法などの特徴を感じとって音楽表現を工夫しどのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	①三味線の音色や奏法の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な，奏法，姿を身に付けて演奏している。 ②自分なりに音楽表現を創意工夫したり思い意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けている。	①伝統音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り解釈したり価値を考えたりし，言葉で説明し，多様な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

７ 本単元を通して伸ばしたい資質・能力

※塩町中学校区では，小中９年間で身に付けさせたい９つの能力を定めている。（重点◎）

塩町中学校区 ９能力					
① 情報活用能力 （調べてまとめる力）		④判断力 （自分で決める力）		⑦体力・継続力 （ねばり強くやりきる力）	
② 発見力（見つける力）	◎	⑤表現力（伝える力）		⑧人間関係形成能力 （人とかかわる力）	
③ 思考力（考える力）	○	⑥将来設計能力 （なりたい自分を描く力）		⑨生活力 （学んだ事を生かす力）	

- ② 発見力・・・ゲストティーチャーの生演奏を，実際観聴することを通して，調べたこととの相違を確認し，理解することができる。
- ⑤ 思考力・・・個人で見て，調べ，思考し，言語により集団で協学，協習する。

8 指導と評価の計画（全4時間）

次	学習内容 (時数)	評 価 価					
		関	創	技	鑑	評価規準 (評価方法)	資質・能力
一	○単元のパフォーマンス課題を知る。	○		○		ア① ウ① (行動観察)	発見力
	正しい姿勢，正しいポジション（勘所）を押さえ良い音色を出すためにはどのような基本が必要でしょうか？						
	(1)						
二	○楽器の構造について知る。 調べ学習の共有をする。 (1)	○	○ ○			ア② イ① イ② (行動観察)	発見力
三	○三味線らしい響きを出す技を見ぬく			○ ○		ウ① ウ② (行動観察)	思考力
	評価指標（ルーブリック）						
	A (素晴らしい)	奏法（コツ）を理解習得し，まちがえず演奏に活用することができる。					
	B (良い)	奏法（コツ）を理解し，音を出すことができる。					
	C	Bに達しない。					
	(1)						
四	○実践で学んだことを活かして鑑賞をする (1)				○	エ① (行動観察)	発見力

9 本時の展開

(1) 本時の目標

伝統芸能習得の技であり，特色である師からの教えの「観る」「聞く」から「所作」を習得し，ゲストティーチャー演奏観聴から，三味線の基本を身に付けることができる。

(2) 観点別評価規準

ウ①三味線の音色や奏法の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な，奏法，姿を身に付けて演奏している。

ウ②三味線の奏法，良さに関心をもち，基礎的な奏法と特徴を感じ取り，音楽表現の工夫をしている。

(3) 準備物

三味線，撥，ワークシート，ホワイトボード

(4) 学習の展開

	学習活動	主な発問・指示（○） 予想される生徒の反応（☆） 「C」と判断される生徒への手だて（◆） 指導上の留意点（●）	評価規準 【資質・能力】 （評価方法）						
導入	○楽器の用意をする。	●駒の取り付け，本体の扱いに留意する。 振り返り① 前時振り返り付箋							
展開	○本時のめあてを知る。	○今日のめあてを確認しよう。 三味線らしい音色を出す技をみつけよう							
	○この時間の評価指標を知る。								
	評価指標（ループリック） <table><tr><td>A</td><td>奏法（コツ）を理解習得し，まちがえず演奏に活用することができる。</td></tr><tr><td>B</td><td>奏法（コツ）を理解し，音を出すことができる。</td></tr><tr><td>C</td><td>Bに達しない。</td></tr></table>			A	奏法（コツ）を理解習得し，まちがえず演奏に活用することができる。	B	奏法（コツ）を理解し，音を出すことができる。	C	Bに達しない。
	A	奏法（コツ）を理解習得し，まちがえず演奏に活用することができる。							
B	奏法（コツ）を理解し，音を出すことができる。								
C	Bに達しない。								
○三味線を演奏する。	○正しい所作に気をつけて，三味線を演奏しよう。								
○個人の振り返り後，班で共有する。	振り返り② 個人ワークシート→ホワイトボード	三味線の音色や奏法の特徴を捉えた音楽表現をするために必要な，奏法，姿を身に付けて演奏している。 自分なりに音楽表現を創意工夫したり思い意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けている。 【発見力】 （ワークシート，行動観察）							

		○個人で考えをまとめ，班で意見交流をしましょう。 ●楽器の特徴を共有する。コツのヒントを共有する。	
まとめ	○本時の振り返りを行う。	振り返り③ 付箋紙交流（個人→同意見やよいと感じた部分に波線とコメント）	
		○今日の学習を通してわかったこと，気づいたことを書こう。	